

『積善院準提堂略観』

◆由緒沿革

積善院は代々山伏を統轄した聖護院門跡の院家として鎌倉初期に開創された。

聖護院が地方山伏に対して行う事務を代行してきた寺で、本山派山伏の筆頭寺院に当る。

明治初年、現在の熊野神社交差点南東角にあった準提堂と合併し大正三年、現在の地に移転した。

◆現況

現在の寺院は準提堂を本堂とし、ここに本尊の準提観世音菩薩と、旧積善院本尊の不動明王の二軀を合祠しており、その西側の元積善院本堂には、役行者像並びに阿弥陀如来等を祠っている。

その他境内には旧聖護院村当時の各所に祭られてあった石地藏五十一体を合祀し、また浄瑠璃で有名な、お俊伝兵衛心中の供養塔も建立されている。

◆寺宝

◎「準提観世音菩薩」

当院の本尊で、光格天皇の勅により、天台の僧・豪潮律師が文化十二年（一八一五）に造立、聖護院宮盈仁親王の開眼になる。京都では数少ない準提尊の一つである。

◎「不動明王」（重文）

旧積善院の本尊で、鎌倉初期の秀作、智証大師の作風を伝えている。

◎「崇徳院地藏」

《人喰い地藏》とも呼ばれる。

平安末期の、保元、平治の乱は都を戦乱のちまたと化し、崇徳上皇は平氏によって讃岐（今の香川県白峰）に流され土牢に八年間幽閉され、長寛二年八月二十六日（一一六四）京都を恋い平氏を恨みながら、その地で憤死された。その後一五年の間に京都は、大火・悪病流行・大地

震と災いが続き、更に養和元年（一一八一）平清盛は高熱に苦しみながら亡くなった。

これらは上皇の祟りと庶民は恐れ、上皇の霊を慰めるために一軀の石地藏尊が加茂川の近くにまつられたという。

《崇徳院地藏》というのが本当であるが、恐ろしい思い出は、その後、誰云うとなくストクインがヒトクイとなまり、《人喰い地藏》と云われて来た。

明治以後、元聖護院村の地藏尊と一緒に当院に合祀された。石造で高さ役五尺である。

◎「お俊伝兵衛供養塔」

五輪石塔で台座共で高さ五尺五寸ある。お俊と伝兵衛が聖護院の森で心中したという近松文学の故事（近頃河原達引）により、豊竹山城小椋ら、芸能関係者が発起人となり、二人の霊を慰めるために昭和二十七年秋に建立された。

『五大力尊法要とは』

五大力菩薩は、仁王經によると「国土守護の仏」と説かれ、当院のご本尊、準提観世音菩薩の隨身として人々の家を守護される憤怒相の五人の菩薩様です。「家を守る」ことから《盗難除け》《災難除け》の仏様として尊崇されるようになりました。

二月二十三日のみ、秘仏「五大力菩薩」をご開帳し、本尊宝前に分身の御影を積み上げ、午前中は大般若経六百巻を転読、午後は山伏の柱源護摩供により祈禱を行い、参詣者は列をなしてお札を受けます。尚、境内では終日、信徒世話方により、かす汁の無料接待が行われます。

京都市左京区聖護院中町十四
聖護院門跡塔頭

積善院準提堂

☎（〇七五）七六一一〇五四一